

救急科

当該診療科の特長	神戸市北区は東西に広がり診療範囲が非常に広いのが特徴である。その中で当院は最大数の診療科・病床を持ち、また唯一ICUを持っている病院でもある。また神戸市北区周辺の行政区において救急医療の応需ギャップが生じていることも事実であり、当院の救急医療の役割は非常に重要である。基本的には、神戸市北区においては三次救急に準じた二次救急医療機関としての役割を果たすことにしている。	
プログラムの特長	多岐にわたる診療科のバックアップのもと北区で唯一のICU管理を経験できる。年間約270台の救急車搬送をうけ、ウォークインも合わせて年間約4,000件をうけている。また、地域の医療支援病院として、近隣の開業医との連携・紹介も多数ある。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①蘇生チームのリーダーとして、心肺停止患者に対する初期対応が出来る。 ②重症患者に対する初期診断と初期治療が出来る。 ③慢性疾患患者の悪化を早期発見、予防できる。 ④急病、外傷の初期対応ができる。 ⑤救命救急医療に必要な手技を取得している。 ⑥緊急を要する病態において、心エコー、腹部エコーを使用して診断が行える。 ⑦救急医療分野に関するCT、MRIの読影に習熟している。 ⑧適切なタイミングで最適な専門医に応援要請ができる。 ⑨医療従事者間の引継ぎ時に適切なプレゼンテーションをすることができる。 ⑩院内の他の職種と協力し、ER診療現場を統括できる。 ⑪保険診療制度を理解し、経済性を考慮した医療を心がける。 ⑫地域医療機能を理解し、自院の救急医療を発展させる役割を担うことを目指す。 ⑬ERを受診する患者、家族の不安に傾聴、共感できる。 ⑭後輩の教育に意欲的に取り組み、ER医療の指導が出来る。 ⑮学術活動に積極的に参加し、公開の場でのプレゼンテーションを経験する。 ⑯メディカルコントロールを理解し、地域における自らの役割を果たすことができる。 ⑰災害医療について理解し、現場トリアージ、医療トリアージ、搬送トリアージを理解・実践できる。 ⑱医療人として自身の職責を全うし、自立した社会人となり得る。 	
研修期間	3年間	
取得可能な資格等	学会名	取得可能な資格
	日本救急医学会	日本救急医学会救急科専門医
指導体制	指導医：1名	
その他	大学医局への所属、未所属へ関係なく全国より専攻医を受け入れている。	